

## 研修報告書 No.14

研修先： 土佐市民病院

1 か月間、土佐市立土佐市民病院で地域医療研修を行いました。

研修生活の中で一番印象に残っているのは、自分で内科外来を担当したことです。予約外来で来院された患者さんを診察し、検査の必要性を見極め、結果をみて方針を決めるというのは予想以上に難しく、今まで一般外来をほとんど経験したことのなかった私にとっては毎日が挑戦の連続でした。多くはインフルエンザや感冒の患者に対する抗ウイルス薬や対症療法、薬剤の処方や予防接種の予診対応でしたが、中には心不全の増悪への入院治療や降圧薬の調整、肝機能異常の精査、生活習慣病に対する生活指導などをする機会もありました。限られた外来時間の中で、見逃してはいけない疾患を拾い上げ、予防できる疾患に関しては個々の患者さんが普段の生活に取り入れられそうな医学的に正しい知識を提供できるように心がけていました。対応に迷うこともありましたが、上級医に電話相談しやすい環境だったため、無事に診療することができました。時間がかかり患者さんを待合室で待たせしてしまい申し訳ない気持ちになることもありましたが、「症状が悪化した時はまたいらしてください。」と伝えると、「先生の外来日はいつですか？」と聞かれ、また受診したい医師とされていることに安堵しました。

内科外来を担当する他に、毎週、小児科や外科、耳鼻科の外来に同席する機会が設けられており、各科の診察や処置の仕方を丁寧に教えていただきました。特に外科外来では、切開排膿や創部処置の仕方、ムカデに噛まれた時の対処法、乳房触診の方法などを学ぶことができ、大変勉強になりました。

現在、日本では高齢化が進んでおり、これからは大都市でも現在の高知県と同様に高齢化が進んで行かろうと上級医が仰っていましたが、実際土佐市民病院に入院する患者さんは、普段研修している東京都内の大学病院よりもさらに高齢の方が多く、90 歳代以上の方が沢山いることに驚きました。その疾患の標準的な治療と、患者さんの年齢やもとの ADL を考慮した時に適切な治療とが違うこともあり、上級医の先生方の対応や家族への説明の仕方はとても勉強になりました。

また、今回の地域医療研修で気付かされたのは、他科へのコンサルトができない場合があったり、他院への紹介のハードルが大都市と比べて高いということです。東京 23 区内では大規模の病院が比較的近い距離に多く存在し、各科の医師も揃っているため、気軽に紹介できる状況にあります。一方で土佐市民病院は地域の中核病院ですが、常勤の医師がいない診療科もあり、上級医の先生方は自らの専門科以外の疾患を含めた幅広い疾患を診ながら、それぞれの症例をより専門的な医療が必要かどうかを見極めて大学病院などに紹介していました。

土佐市民病院は医師や医療スタッフの方々が皆優しく、県外から来て右も左もわからない研修医の自分に院内での仕事の仕方や高知の方言を教えてくださいました。そのような手厚いサポートのおかげで、1か月という短い時間ではありましたが、土佐市民病院の一員として研修することができました。また休日には高知県内を観光したり、美味しいご飯とお酒を楽しむこともでき、とても充実したひと月となりました。

最後となりますが、土佐市民病院のスタッフの方々、今回の地域医療研修をサポートしてくださった高知医療再生機構の方々、研修にご協力いただきました患者の皆様に感謝申し上げます。